

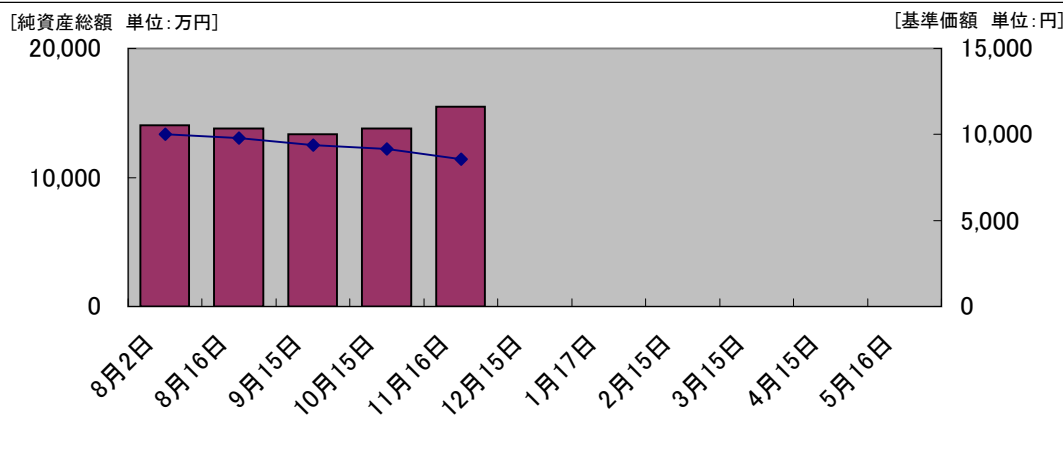
販売用資料

ひまわり&WVI・システムトレード・オープン  
ケイマン籍オープンエンド型公募契約型公社債外国投資信託(追加型)

<ファンドの特色>

当ファンドは、円建社債への投資を通じて、株価指数先物(日経225先物・TOPIX先物)とFX(米ドル/円・ユーロ/米ドル)を投資対象として自動売買システムによる運用を行うことにより中長期的な元本の成長を目指します。

基準価額と純資産総額の推移(設定来:月次)



ファンド概要  
作成基準日  
2010年11月16日現在

管理会社  
アイガー・マネジメント・リミテッド

設定日  
2010年8月2日

お申込手数料  
3.15%(税抜き3.00%)を上限として販売会社が定める料率

申込・換金のお申込単位  
10口以上1口単位

申込・換金の取扱い  
原則として毎月1回

評価日  
毎月15日(営業日でない場合は翌営業日)

決算日  
毎年7月末

分配金  
ありません

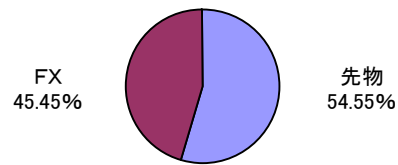
信託財産留保額  
ありません

基準価額と純資産総額

	10/15	11/16	前月比
基準価額*	9,139円	8,554円	▲6.40%
純資産総額	137,828,663円	154,676,459円	+12.22%

※1口当たりの基準価額です。

[FX・株価指数先物の資金配分比率]



資金配分比率はH&W社の投資金額に対する評価額の割合で、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

相場概況(10/18~11/16)

[先物市場]

4-9月期決算発表本格化の中、個別物色が見られたものの、総じて目立つ下期の減速予想からじり安の展開が始まり、10月19日には中国が利上げを決定し、中国景気減速を警戒する輸出関連株の下落や、円相場の高止まり感もあり9,100円台まで下落した場面もあった。その後は、追加的金融緩和策に踏み切った米国が堅調な相場展開となったことで、日本市場への資金流入期待感が台頭した。日銀が金融政策決定会合で追加金融緩和に踏み込まなかったことから一時円高が進む場面もあったが、80円台後半で落ち着いたため安心感が広がり9,800円台に大きく上昇した。一方、欧州財政不安が再燃を112円台前半に上昇したユーロを嫌気し、輸出関連株中心に売られ、アジアの主要な株価指数が軒並み下落して9,797円で終了した。

[FX市場]

前半はドル安が進行した。米FRB(連邦準備制度理事会)が11月2・3日開催のFOMC(連邦公開市場委員会)で追加の金融緩和を決定するとの憶測や米長期金利の低下を背景にドルが売られた。FOMCでは政策金利を0~0.25%に据え置くと同時に、来年6月までに長期国債を6,000億ドル追加的に買い入れる追加の金融緩和を決定、さらに声明文では「国債の買い入れペースと全体の規模を定期的に見直し必要に応じて調整する」と表明、状況次第でさらなる金融緩和を行う用意があることを示唆した。FOMCが終わると市場の関心は米国からユーロ圏の債務問題へとシフト、アイルランドの債務状況をめぐる懸念からユーロ売りが加速し、11月4日に1.42ドル台まで上昇したユーロ/ドルは15日には1.35ドルまで下落した。前半はドル売り、後半はユーロ売りの流れではっきりと分かれる展開となった。

## 売買システムの特徴

株価指数先物	システムA	日経225先物・TOPIX先物	市況およびボラティリティの変化に従って取引を行う逆張り戦略。
	システムB	日経225先物・TOPIX先物	市場トレンドに従って取引を行う逆張り戦略。
	システムC	日経225先物	いくつかの市場のトレンドおよび動向に基づいて取引を行う順張り戦略。
	システムD	日経225先物・TOPIX先物	日々の市場のボラティリティに反応して取引を行う順張り戦略。
	システムE	日経225先物・TOPIX先物	市場トレンドが明確でないときとみなされるときに取引を行う順張り戦略。
	システムF	日経225先物	前日までの市場のボラティリティに基づく「オープニング・レンジ・ブレイクアウト型」戦略。
FX	システムA	米ドル/円	投資家心理の変化および市場の変則性をもとに取引を行う逆張り戦略。
	システムB	米ドル/円	市場の相互作用および日々の市場トレンドの継続性を利用することにより取引を行う順張り戦略。
	システムC	米ドル/円	市場動向の変化およびリバウンドのタイミングを捉える逆張り戦略。
	システムD	ユーロ/米ドル	独自の市場特性およびユーロ/米ドル市場とその他の市場間の相互作用に重点をおいた逆張り戦略。
	システムE	ユーロ/米ドル	独自の市場特性およびユーロ/米ドル市場とその他の市場間の相互作用に重点をおいた順張り戦略。

## 運用コメント(10/18～11/16)

11月2、3日にかけて開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)で追加の金融緩和策が発表され、世界的に見て出遅れ感が顕著であった日本株への資金流入期待が広がり、日経平均とTOPIXは上昇に転じた。また、日銀が12月半ばからETF(上場投資信託)の買取りを決定したことも相場の下支えとなっている。

株価指数先物は日足ベースでは上昇したものの、日中の動きはそれほど大きくなく、ブレイクアウト系デイトレードシステムがダマシにかかることが多くなり、成績が振るわなかった。その結果、株価指数先物の収益はマイナスになった。

為替はドル円の為替介入リスクの中、不透明感を増しており、東京市場でのボラティリティが増大した。特に、10月下旬、ガイトナー米財務長官のドル安に歯止めをかける発言がドル円の急騰につながり、ドル円ショート系のシステムが損失になった。為替システム全体の成績はこれらの要因により、株価指数先物ほどではないが、マイナスの収益を計上した。

## ファンドの主なリスク(お申込の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

### [当ファンドに関するリスク]

当ファンドへの投資は、主に以下のリスクを伴います。これらは主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。リスクの詳細については投資信託説明書(交付目論見書)にてご確認ください。

#### ●市場リスク

当ファンドはリスクを含む投資商品であり、その運用実績は市場環境等により変動します。買戻価格および早期・強制償還価格は購入時の純資産価値を下回る場合があります。

#### ●信用リスク

先物および先渡契約を含むデリバティブの契約は通常、H&W System Trade Inc.(以下「H&W社」といいます。)とブローカーとの間で交わされます。このため、H&W社はブローカーが支払い不能状況や、同様の状況に陥ることに伴うリスクがあります。これにはH&W社がブローカーに差し入れる証拠金も含まれます。当ファンドはブローカーの債務不履行リスクを負います。

#### ●流動性リスク

当ファンドは、H&W社を通じて、変動が激しく、また流動性がなくなることのある市場に投資する場合があるため、市場の動向に対してポジションを清算することが不可能になり、あるいはそのためのコストが発生する場合があります。

当ファンドは毎営業日買戻ができるファンドではありません。買戻のお申込は月に一回しかできません。

#### ●先物および先渡契約を含むデリバティブに関連する投資リスクおよび取引リスク

先物および先渡契約を含むデリバティブ商品の取引は、一定の特別かつ重大なリスクを伴い、H&W社を高い損失リスクにさらすことがあります。かかる商品の取引の主要なリスクは、時価のボラティリティおよびレバレッジです。

#### ●自動取引システムに関するリスク

H&W社が利用する自動売買システムおよびH&W社が依拠する取引ソフトウェアは、人手の介入が限定的であり、システム故障のリスクならびに停電、コンピューター・ハッカー、地震およびその他の天災ならびにその他の不測の事態によりH&W社がその資産を取引することができなくなる可能性があるリスク、また、自動取引システムにより維持されるデータの異常、損失または自動取引システムによるデータの受領の遅延により当ファンドが損失を被るリスクを有します。ウエストビレッジキャピタル株式会社とひまわり証券株式会社との間で締結されたライセンス契約は、ウエストビレッジキャピタル株式会社の選択により終了することがあり、かかる場合、ひまわり証券株式会社とH&W社との間で締結されたサブ・ライセンス契約が終了し、ひいては当ファンドが終了することになります。

#### ●償還のリスク

当ファンドの純資産総額が20億円を下回った場合、その他目論見書に規定されている事由が発生した場合には、ファンドを早期償還する場合があります。償還時の純資産価額は投資時の価格を下回る場合があります。

#### ●税務・会計リスク

当ファンドを購入した当時の税務・会計処理方法に関して、新たな解釈、法令などの改正が行われる可能性があります。

## お申込メモ(お申込の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

信託設定日	2010年8月2日(月)
信託期間	2010年8月2日(月)～2020年8月12日
お申込/ご換金	10口以上1口単位
	お申込/換金価格は、当該評価日の一口当たり純資産価格
	※当初価格は1口当たり1万円
お申込期間	継続募集期間: 2010年8月2日～2011年4月28日
評価日	原則、毎月15日(営業日でない場合は翌営業日)
営業日	東京、香港およびケイマンにおける銀行営業日

巻末の「当資料をご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

## 手数料等の概要(詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

申込手数料: 当該評価日の一口当たりの純資産価格に3.15%(税抜き3.00%)を上限として  
販売会社が決定する率を乗じて得た額

解約手数料: ありません

信託報酬: 管理会社報酬: 純資産総額に対して年率上限2.0%(最低報酬額: 年間14,400,000円)

受託会社報酬: 純資産総額に対して年率上限0.10%(最低報酬額: 年間84,000米ドル)

代行協会員報酬: 純資産総額に対して、初年度は年率上限0.24%、2年目以降は0.30%

販売会社報酬: 純資産総額に対して、初年度は年率上限0.48%、2年目以降は0.60%

ブローカー報酬: 純資産総額に対して、初年度は年率上限0.96%、2年目以降は1.20%

投資顧問報酬: 純資産総額に対して、初会計年度は年率0.80%、2年目以降は1.00%

投資顧問成功報酬: 20%(ハイウォーターマーク方式)

その他費用等: ファンドおよびH&W社のその他取引費用、監査報酬、弁護士費用、広告費用、印刷費用等の事務管理費用および  
設立費用等

\*これらは、運用状況等により変動するものであり、事前に掛率、上限等を記載することができません。

課税関係: 当ファンドは現行の投資方針および税法上、公募契約型公社債外国投資信託として取り扱われます。

\*当ファンドの投資方針の変更や税制等の変更や将来における税務当局の判断により、税金の取扱いが変更になる可能性があります。

## ファンドに関するお問い合わせ

ひまわり証券株式会社

関東財務局長(金商)第150号(金融商品取引業)

加入協会: 社団法人金融先物取引業協会・日本証券業協会

電話番号: 0120-86-9686(08:00~18:00 土日祝日を除く)

## 関係法人

管理会社 アイガー・マネジメント・リミテッド

受託会社 マッターホルン・ファンズ・リミテッド

保管会社/管理事務代行会社 メイプルズ・ファンド・サービス・リミテッド

代行協会員/投資顧問/H&W社

のブローカー/日本における販売会社 ひまわり証券株式会社

## 当資料をご利用に当たっての注意事項

本資料は、アイガー・マネジメント・リミテッドが商品案内等に関する情報の提供を目的として作成したものであり、投資信託の加入を目的としたものではありません。

本資料に含まれる情報は、アイガー・マネジメント・リミテッドが各種の情報源から取得したものです。その情報の正確性および完全性について表明または保証するものではありません。また、本資料に記載された意見等は、本資料作成時におけるアイガー・マネジメント・リミテッドの見解であり、今後予告または通知なく変更されることがあります。

本資料を使用することにより生じる直接または間接のいかなる種類の損失に対しても、アイガー・マネジメント・リミテッドおよびその関連会社ならびに関連会社の役職員(本資料の作成または発行に関わった者を含みます。)は責任を負いかねます。投資の決定や判断は、投資信託説明書(目論見書)を必ずご確認の上、お客様ご自身でなさるようお願いいたします。

本資料は、日本国居住者でありかつ関連する法令等により投資信託等有価証券にかかるお取引が制限されていないお客様のみを対象としております。

本資料の著作権はアイガー・マネジメント・リミテッドに帰属しております。アイガー・マネジメント・リミテッドの事前の書面による許可なく本資料を複製、転用することは、形態の如何を問わず禁じられています。